

しあわせ 平和の 風

終戦記念日に
今を問う平和とは…

世代にはそれぞれの願いがあります
今私たちは夏空の風の中で答えを
探しているのかもしれない

戦地の話、戦中の体験を語る世代
聞かされた世代
学んだ世代、伝える世代

今はぜいたくな時代かもしれない
戦争中を思えば今の人は…
と言われた世代も高齢になり
何をもって平和を問うのか

終戦記念日は、今を生きているすべての世代に
平和の意味を問いかけます

日本国憲法前文から平和を考える 土佐弁に訳して分かりやすく

8月15日は終戦記念日です。毎年「広報こうなん」ではこの8月号で平和について考える特集を取り上げています。今回は、次に紹介する本を制作するに至った経緯や活動内容を紹介しながら、日本国憲法と平和について考えます。

皆さんは、日本国憲法を 読んだことがありますか

意外と前文はあまり知られていませんが、実は日本という国を知るうえで大切なことが書かれています。しかし、私たちには表現が難しく、意味を理解しにくいのが難点です。そこで「もっとシンプルに、口ごろ使っている言葉に置き換えたら」と、香南市の三ノ農家の主婦がある日突然、「三ノ畑の真ん中で思いつきます。

「」の先ずうっとうしく平和でおりたいいうて 「じゃんと強うに思うがです

これは、土佐弁に訳した憲法前文の抜粋です。野市町在住の山本明紀さんを中心として、各都道府県ごとの方言に訳し、憲法について考えてみようという動き出しました。全国各地から方言の訳を集め、この度『日本国憲法前文お国』とは訳が完成しました。

ただ面白半分
書いたのではない
この本はある日
憲法と向き合った
一人の農家の主婦が
発信したメッセージ



きっかけは今から5年前

イラク戦争への自衛隊派遣、共謀罪の新設、改憲論議が取りざたされたところ、山本さんはそれまで全く関心がなかった日本国憲法に興味を抱きます。同級生が自衛官としてイラクへ派遣される話を聞き「これからの日本はどうなるのだろう」と将来に不安を感じたこと、また、幼なじみから「憲法前文を読むと日本がどういう国なのか分かるよ」というアドバイスを聞いたことで、憲法をひも解きました。原文を読んでも意味がよく分からず「もっと平易な言葉に訳してはどうだろう。普段使っている土佐弁になおしたら、意味も分かりやすいのでは」と、自分の生活に近い言葉に置き換えようと考えました。